

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 野々浜小 学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価（10月1日）			最終評価（1月19日）					
							□指標に係る 取組状況	プロセス 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況	プロセス 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
							◎短期（中期）経営 目標の達成状況				◎短期（中期）経営 目標の達成状況				
2	【確かな学力】基礎学力の定着と思考力・判断力・表現力の育成	★	継続	国語科・算数科における基礎学力の定着と子ども主体の学びづくりの推進【思】	・主体的な学びに向けて、国語科・算数科授業で児童のふり返りを生かした学習計画や取り組みを行う。	①授業で考えることが面白い」と回答した児童の割合を80%以上にする。【児童アンケート】 ②国語科・算数科の単元テスト60点未満の児童を10%未満にする。	□①授業で考えることが面白い」と回答した児童の割合は79%である。 ②単元テスト60点未満の児童は国語科7%、算数科8%である。 ◎基礎学力については、朝学習や算数教室等を通して、概ね定着している。思考力・判断力・表現力の育成に向けて、各学年の取組を交流し、全体に広げる必要がある。	3	4	①自己決定する場の設定、自分が選んだ学び方や学びの振り返りの時間を設定する。 ②朝学習の計算・漢字学習を充実させる。授業中の基礎学力や思考力・判断力・表現力を両立して高める単元計画の工夫をする。	□①授業で考えることが面白い」と回答した児童の割合は75%である。 ②単元テスト60点未満の児童は国語科8%、算数科8%である。 ◎基礎学力については概ね定着したものの、子ども主体の学びに課題がある。 思考力・判断力・表現力の育成としての振り返りカードを用いた自己評価の実施が不十分である。	3	3	3	◎基礎学力の定着に向けて、コトシや実態に応じた問題等に継続して取り組ませる。 ◎主体的な学びの充実に向けて、動機付け・意欲の維持を促す学習展開の工夫をする。 ◎自己評価の計画的な実施、職員同士での定期的な交流等を通して思考力・判断力・表現力の育成に取り組む。
5	【豊かな心】主体性・積極性の育成		継続	主体的に課題解決を図る態度を育成する【主】【課】	・学級力レーダーチャートを用いて学期に2回のスマイルタイム等で学級状況の把握と改善を行う。 ・学級活動、特別活動の中で、児童一人一人が目標をもち、ふり返りを充実させる。	③「自分は目標をやりとげよう」と取り組んだ」と回答した児童の割合を85%以上にする。【学級力アンケート】 ④「自分の考えは認められている」と回答した児童の割合を80%以上にする。【児童アンケート】	□③「自分は目標をやりとげよう」と取り組んだ」と回答した児童の割合は83%である。 ④「自分の考えは認められている」と回答した児童の割合は71%である。 ◎スマイルタイムに話し合いをし、立てた目標を意識して取り組み、振り返りまでできた。自分たちで声をかけあい、目標を達成しよう」と取り組むことができた。	3	3	③アンケート後や行事の前後に、結果を活用して「めあて」を立てたり「ふりかえり」をしたりする話し合いの場を設ける。 ④目標に向かって頑張っている姿に対して、積極的に声かけを行い、肯定的評価を行う。	□③「自分は目標をやりとげよう」と取り組んだ」と回答した児童の割合は77%である。 ④「自分の考えは認められている」と回答した児童の割合は61%である。 ◎全職員が、スマイルタイムの進め方を理解し、学級の実態に応じて取組を行った。共感的な人間関係の形成に向けた全校的な取組を進める必要がある。	3	3	3	◎話し合いで決まったことに対して、まずは担任から意識づけの声かけをしていく。 ◎引き続き、行事ごとに、学年の実態に応じた「ふり返りシート」を活用する。 ◎共感的な人間関係を形成するための活動を計画し、実践する。
6	【健やかな体】基礎体力の向上		継続	運動の楽しさや喜びを味わう【主】【課】	・児童一人一人が目標設定をして、自分の課題にあった体力向上の取組を行う。	⑤体力づくりの様々な取組に参加し、「運動の楽しさや喜びを感じることができた」と回答した児童の割合を80%以上にする。【児童アンケート】	□⑤体力づくりの様々な取組に参加し、「運動の楽しさや喜びを感じることができた」と回答した児童の割合は92%である。 ◎セット運動・グーパー運動の実施が定着してきたことや、頑張りカードに、各学年で目標値を決めて、継続的に取り組むことで、基礎体力を高めることができています。	3	4	⑤セット運動・グーパー運動の継続、簡単な柔軟運動を新たに行う。体力テストで課題のあった内容について、学年に応じて取り組む内容を決めたり、委員会での取組を進めたりする。	□⑤体力づくりの様々な取組に参加し、「運動の楽しさや喜びを感じることができた」と回答した児童の割合は89%である。 ◎学校全体で、グーパー運動の取り組みが定着した。柔軟運動に関しては、十分に定着していない。自分に合った運動と回数を選んで取り組むことができた。	4	4	4	◎グーパー運動・柔軟運動に継続して取り組ませる。 ◎体力テストの再テストに向けて、体育委員会による体力アップの取り組みを実施する。

6	【力量ある教職員】 教職員の元気と授業力の向上	★	見直し	仕事のスピード化・効率化を意識して職務を遂行し、業務改善を進める。 【主】【課】	<ul style="list-style-type: none"> ・会議や研修の時間設定を適切に行い、業務改善を図る。 ・各種計画を早めに提示し、勤務時間を意識しながら見直しを持った業務遂行をする。 	◎時間外勤務時間が月45時間未満となる職員の割合を100%にする。	□◎時間外勤務時間が月45時間未満となる職員の割合は100%である。 ◎職員に、業務に優先順位をつけたり、締切を意識し進めたりすることを促すことで、業務改善を進めることができた。校区研に向けて、学校全体で準備をし、計画的に実施することができた。	4	4	◎決定したことを早めに周知し、作業する時間を十分確保できるようにする。学校行事や事務作業の見直し、アンケートのデジタル化等を通して引き続き業務改善を進める。	□◎時間外勤務時間が月45時間未満となる職員の割合は99%である。 ◎効率よく業務改善を進めると意識を、全職員がもつことができています。 12月の学校評価アンケートをタブレットで行うなど、ICT機器の活用で業務改善が進んでいる。	4	4	4	<ul style="list-style-type: none"> ○引き続き、授業改善や児童保護者へのアンケート等でのデジタル化を進め、時間外勤務の削減に取り組む。 ○来年度の教育課程の編成に向けて、行事の精選等、これまでの見直しを行い、勤務時間外の業務を減らせるようにする。 ○校区研以外の研究会や研修に1人1回以上の参加を促し、校内の還元を通して、授業力の向上を図る。
5	【信頼される学校づくり】 保護者・地域から信頼される学校の創造		継続	学校・家庭・地域が学校の取り組みを共有し、児童を育てる。 【共】	<ul style="list-style-type: none"> ・各種便りの発行やHPの更新を計画的に行い、学校の取り組みを保護者や地域に周知する。 ・すぐメールやタブレットの活用等を通して家庭との連携を深める。 	⑦「信頼される学校づくり」に関する項目について肯定的な回答の割合を90%以上にする。【保護者アンケート】	□⑦「信頼される学校づくり」に関する項目について肯定的な回答の割合は85%である。 ◎計画的に通信を発行し、児童の学習や生活の様子を発信しているが、月1回以上のHPの更新が遅れることがある。	3	3	⑦HPを計画的に更新できるようにしていく。保護者に周知徹底を図るために、メール配信を有効に活用する。通信では、児童につけたい力、ついた力を具体的に知らせていく。	□⑦「信頼される学校づくり」に関する項目について肯定的な回答の割合は83%である。 ◎計画的に通信を発行し、児童の学習や生活の様子を積極的に発信した。保護者に周知徹底を図るために、メール配信を有効に活用した。学校での児童の課題に対して、保護者への理解が十分に得られていない。	3	3	4	<ul style="list-style-type: none"> ○引き続き、通信の発行やHPを更新し、学校の様子を公開する。必要に応じて、メール配信も積極的に行う。 ○児童の地域行事への参加、学校行事等への地域ボランティアの参加を計画的に行う。 ○学習指導、生徒指導等、保護者への連絡を密にとり、信頼される学校づくりに取り組む。

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。